

## 第 I 部

「南京を思い起こす 2013」の記録

## 1. プログラム

### 国際セミナー「南京を思い起こす 2013」 — Healing the Wounds of History (歴史の傷を癒す) による平和構築 Part.3 —

2013年9月17日～9月20日、中国南京市、南京師範大学にて

このセミナーは、異なった戦争体験と教育を受けた日本人、中国人が、日中戦争と南京の悲劇について共に学び、心を開き、お互いの声を深く聞く事を目的とします。参加者は、記念館見学、生存者の証言などを通して日中戦争と南京の悲劇について共に学び、感じる事を分かち合い、過去の戦争が現在の私達の社会や自己のアイデンティティーにどのような影響を与えているか、また、私達はそのような過去を越えて、平和な未来のために何ができるのか、ドラマセラピーや表現アーツの手法を使いながら、共に感じ、考えていきます。

9月17日(火)	9～12時：オリエンテーション 13～18時：南京記念館見学とシェアリング
9月18日(水)	9～12時：HWH ① 13～18時：生存者証言、HWH ②
9月19日(木)	9～12時：HWH ③ 13～18時：HWH ④
9月20日(金)	9～12時：燕子磯での追悼式 午後：学術シンポジウム「戦後世代の歴史平和教育」

※ HWH プログラム -Healing the Wounds of History は、アルマンド・ボルカス氏自らがホロコースト生存者の2世であることから、葛藤を抱える民族間の和解の為に開発した平和教育プログラムです。HWH プログラムはクローズドで行ないます。

場所：南京師範大学、および関連施設

定員：日中からの参加者それぞれ20名程度

主催：立命館大学大学院応用人間科学研究科、南京師範大学心理学院、南京大虐殺研究センター、CIIS 大学院

問い合わせ：立命館大学大学院応用人間科学研究科  
村本邦子 [muramoto@ss.ritsumei.ac.jp](mailto:muramoto@ss.ritsumei.ac.jp)

※本企画は、文部科学省「科学研究費基盤（B）：日中の戦後世代を対象にした新たな東アジア型歴史・平和教育プログラム開発」（課題番号 23310189）、および立命館大学研究推進プログラム（基盤研究）「平和教育施設を使った戦後第三世代の歴史教育に関する研究」の助成を受けて実施します。

## 2. 2013年9月17日（火）

### 2-1 イン트로ダクション

村本邦子：みなさんお集りいただきましてありがとうございます。2007年に初めて南京に来てから今回で七回目の訪問になります。セミナーの形では四回目になります。いつも温かく迎えてくださりお力添え頂いております張先生、羅先生、ずっと一緒にやってきたアルマンド先生、村川さん、笠井さん、集まってくださった参加者のみなさんに感謝します。今回は少し日本人の参加者が少なく申し訳なく思っていますが、みなさま有意義な時間を過ごして頂けるよう願っています。

張連紅：尊敬するボルカス先生、村本先生、ご在席のみなさま、おはようございます。今はちょうど秋で金木犀の香りが漂い、南京としては一番素晴らしい季節です。村川先生やボルカス先生が作ってくださったこのワークショップが南京師範大学で正式に行なわれるのは三回目です。毎回やってこれたのは、村本先生、ボルカス先生及びみなさまのおかげです。心から参加者のみなさんに感謝します。

周知のように、人類の歴史の中では、戦争がたくさん起こりました。戦争は、政治家達が、自分の気持ちに従って起こしたり、仕掛けたりしたものでした。そういう戦争の影には、無数の亡くなった命や財産の喪失がありました。そういう戦争が人間の心にもたらすトラウマについて、今、目を向けるようになりましたね。実は今、人類社会の中で人々がかかる病気は、怨みや悩みと繋がっているものが多いのではないのでしょうか。心理から発生する病理が社会に様々な問題をもたらしました。そういったものに対して、心理学者はその源に目を向けるようになりました。ボルカス先生は、心理治療でそういったテーマを扱っておられます。そして村本先生がこのワークショップを立命館大学で研究課題としてできるようにしてくれました。

中日戦争が発生したのは1930年代、1940年代ですが、私達はその頃からの病気にかかっているのかもしれない。こういったワークショップに参加することで、自分の病気を治す、また社会にもこういったことを広げて行きたいと思えます。第一回、第二回のワークショップの効果はとても素晴らしいと思えます。ですから今回もより素晴らしい効果が得られるよう期待しております。三回目の行なわれる期間は、中国の仲秋節で、一家で団らんをする時期です。みなさんは世界各国から集まって、南京師範大学で一家のように団らんし、楽しい中秋節を一緒に過ごしましょう。三回目のワークショップが成功するようにお祈りいたします。



村川治彦：ボルカス先生は、カリフォルニア統合学研究所の教授であり、心理療法家であり、ドラマセラピストでもあります。ユダヤ人とドイツ人のワークを1980年代からはじめ、1990年代には、色々な国や文化間の葛藤をテーマに扱っていらっしゃいました。四日間、戦争という重いテーマですが、楽しいエクササイズも交えて楽しみながらやっていけたらと思います。

アルマンド・ボルカス：ここにお招き頂き、ありがとうございます。南京師範大学で私のスキルを歴史のトラウマを癒すために捧げることができるのはとても光栄です。張先生、このような集いを開催して下さり、ありがとうございます。また、準備のために尽力くださった同僚のみなさんに感謝します。

私はドラマセラピストであり、心理療法家であり、また演劇ディレクターでもあります。私はドラマをセラ皮的、教育的に使います。このようなワークをするのが初めての方も多いたと思いますが、最初は私がみなさんにやってくださいと言うことは少クレイジーだと感じるかもしれません。しかしそれには目的があります。みなさんの自発性や想像力を引き出すためです。それは、みなさんが抱えていると意識している、または意識していない歴史を扱うために必要なことです。

ここにいる多くの人は戦争世代の3世にあたるでしょう。これが自分とどの

ように関係するのか、苦しみは自分に起こったわけではないと思われるかもしれませんが、ある世代の傷は癒されなければ世代を超えて連鎖するということがたくさんの研究を通して明らかになっています。ワークの目的の一つはみなさんが、普段意識していなくても、自分が抱えている、または抱えていないことを自覚することです。一步一步、テーマに近づくようガイドします。ドラマセラピーは遊び心に満ちていますが、普段ある心の壁を取り払う効果があります。みなさんは十分に自己ケアをして、もしやりたくないことがあったら、ノーと言ってください。穏やかにやって行きたいと思います。まずは、みなさんがお互いを十分に知り合って、そこでテーマに近づいて行くための安全な囲いを作ります。では説明はこのくらいにして、プロセスを実際に行なって行きましょう。

## 2-2 HWH ワークショップ

### ウォームアップ

**Name and Movement (名前と動き)** : 「自分の名前に動きつけて今の感じを表現してみてください。グループのみんなはそれをミラーリングしてください。」

**Imaginary Object (想像の物)** : 「イマジネーションを引き出すエクササイズです。想像の物をまわしますので、どんどん隣の人にまわしてください。」

熱い焼き芋、手乗りインコ／てんとう虫、希望／絶望など

**Magic Clay (魔法の粘土)** : 「3~4人組になります。言葉を使わずに、粘土を好きなものに変えて、まずそれを使ってください。そしてそれを次の人にわたします。わたされた人はそれをまず使ってから、また粘土を捏ね直して好きな物を作り、それを使ってから次の人にわたします。」

**Lightening Rounds (雷回し)** : 「また大きなグループの輪になって、音と動きをウェーブのようにまわします。」

**Here to There (ここからあそこへ)** : 「部屋の端から端へ、好きなように移動し

てください。なるべく声や言葉を使ってください。」

**Here to There in Pairs (ペアでここからあそこへ)** : 「今度は二人一組になってやります。突然何かのシーンを始めても良いです。事前に何をするか相談をしないで突発的にやってください。」



**Role Play (ロールプレイ／ペアワーク)** : 「ドラマセラピーでは、役を付けたり落したりするので、その練習をします。今から役を与えますので、その役になりきって30秒ほど演じてみてください。」

入国審査官／怪しい旅人

子供の交遊関係を好ましく思っていない親／好きに遊びたい子供

レポート書きに行き詰まっている学生／白紙のコンピューター又は原稿用紙

アルコール依存症の人／お酒

津波／日本

大気汚染／北京

**Human Sculpture (人間彫刻／ペアワーク)** : 「一人が自分の体で彫刻を作ったら、もう一人はそれに対して関係した彫刻を自分の体で表現します。それを繰り返します。」

**Imaginary Present (想像のプレゼント／ペアワーク)** : 「一人がある大きさや重さをしたプレゼントをパートナーに渡します。パートナーはそれが何であるか想像し、「ありがとう、素敵な○○!」と言って受け取ります。それを交代でくりかえしやってみてください。」

Role Play (台詞を使ったロールプレイ) :

ください／だめです

ひどいよ／ごめんなさい

小グループでのシェアリング

2-3 南京虐殺記念館見学と HWH によるシェアリング



### 3. 2013年9月18日(水)

#### 3-1 HWH

**Sound and Movement (音と動き)** : 「音と動きをします。みなさんは、それをミラーリングしてください。」

**Mask (お面)** : 「お面をつけているかのように、自分の顔にある表情を作ります。それを取り外して、隣の人にわたしてください。受け取った人はそれをつけてみます。つけてみたらそれをまた外して、新たなお面を作ります。それをまた外して次の人に渡します。」

**Reacting to the Word (言葉に反応する)** : 「今から、〇〇の言葉に反応してくださいと言います。そうしたら、自分の体を使ってその言葉に反応する彫刻を作ってください。周りの人を気にせず、イメージを自分の中に一旦取り込んで、それを体で表現する練習です。」

例：不安、葛藤、切望、渴望、平和構築、怒り、など

**Checking in (チェックイン)** : 「この彫刻のエクササイズを使って、チェックインをします。今の感じを1文で表現してください。例えば私は『重さを感じる。』と言います。ホロコーストの子孫なので、南京とホロコーストの両方をホールドすることの重さです。みなさんは、私に共感して、先ほどのように体の彫刻で表現してみてください。みなさんは私の気持ちに反応しているのです。私の体験をミラーリングしてくださっているのです。私の体験を尊重しているのです。文を言った人は、みんなの反応をよく見て味わってください。」

**Formative Moment (アイデンティティーの形成に影響を与えた出来事)** : 「自分の記憶を辿って、自分が形成される上で重要な出来事を思い出してください。例えば、私の出来事は、家の引き出しを空けたら、死体が薪のように積み上げられた写真を見つけた時です。また別の出来事は、中学生のときいじめっ子に突き飛ばされて、人種差別的なことを言われたことです。また別の出来事は父と戦争のドキュメンタリーを見ているときの、父の催眠にかかったような表情

を目の当たりにしたときです。これらが私のアイデンティティーの形成に影響を与えた出来事です。もしかしたら、歴史のクラスの中での出来事かもしれませんし、祖父母から聞いた話かもしれません。中国人、または日本人であることに対する偏見的なコメントかもしれません。今からグループに分かれて、このような記憶について何か一つで良いのでシェアしてみてください。戦争の話でなくても構いません。私のいじめっ子の話は、直接的には戦争と関係していませんが、歴史や人種差別と関連しています。例えば自分のアイデンティティーに誇りを持った出来事でも良いのです。自分が自分のことをどんな風を感じるかということに、何が影響を与えているのか着目してみるワークです。3人組で一人5分くらいでシェアしてみてください。」



**記憶をみんなで演じる：**「誰か一人のお話を、みんなで演じてみてください。それをグループごとに発表します。」

**全体シェアリング：**「個人の体験は、皆さんのアイデンティティーの形成に影響を与えていることを理解するためのエクササイズをしました。みなさんと戦争はどのような関係があるのでしょうか。これから昼食をとって、午後は幸存者のお話をみんなで聞くわけですが、今からこのスカーフをまわしますので、今朝のエクササイズを通して感じたことや疑問に思った事があれば、自由にシェアしてください。」

### 3-2 幸存者証言

幸存者：この話を思い出すとすぐに悲しくなります。南京大虐殺のとき、私は6つでした。そのとき日本軍が南京にやってきました。まず空爆です。南京市民はみんな防空壕をつくっていましたので、飛行機がやってくるとみんな中

に逃げるのです。毎日毎日空襲がありました。とうとう日本兵士が南京城に入ってしまった。飛行機が来る時はサイレンがありました。日本軍が入って来た時はサイレンもなく、人々は洞窟に入りませんでした。日本軍は、入って来てすぐ、あちこちを焼き払いました。灰ばかりになり、人々は洞窟の中に入ってしまった。うちの家族はその時は5人でした。私の家族と一緒に隠れた洞窟は日本兵に見つけられました。その洞窟の中には100人くらいいました。今日は簡単に話します。本当に話し始めたら長い時間かかります。



日本兵は洞窟の中に人がいることを確認して、3人が入ってきました。私の家族は5人でしたが、その場で3人殺されました。日本軍が外から中を見ても暗くてあまり見えませんが、人がいると確認したので機関銃でそのまま30分くらい掃射したんです。その時、母ともう一人は向かい側に隠れて、私ともう一人がこちら側の死体の後ろに隠れていました。だから私はたまがあたりなかったのです。日本兵は5時までに戻らなければならないので、中に入って色々物を探しました。そのとき赤い物を着たおばあさんが動きました。日本兵は何度も何度もおばあさんを射ちました。そして足で蹴って動かなくなるのを確認しました。私は死体の後ろに隠れてじっとしてそれを見ていました。

五人家族、父、母、姉妹で洞窟に入っていましたが、私のおじいさんは別の所にいました。その時誰かがおじいさんに、日本軍が洞窟に入ったので、家族が殺されてしまったかもしれないことを伝えました。おじいさんは洞窟の中に入り、日本人は行ってしまっ、真っ暗で何も見えませんが、家族の名前を叫びました。当時の私の名前はターチャオ、3歳の妹はアーチャオ。おじいさんは「ターチャオ、アーチャオ」と呼びました。その声に答えておじいさんのところに行きました。父、母、一才の妹がどこにいるかわからないので探す、3人は抱き合うようにして死んでいました。3人で泣きながら家族の死体を見つけました。おじいさんは二人を洞窟の外に連れ出し、生きてる人を探して中に入りました。お母さんと息子の親子を連れ出しました。お母さんは怯え、息子は精神的におかしくなっていました。またおじいさんは男性を連れ出しま

した。この人は銃に射たれて足が折れていました。そして、おじいさんは、男性をもう一人助け出しました。他にも生きていた人がいたようですが、その時はそれ以上助けることができませんでした。その時の男の子は今でも生きていて86歳です。私と同じように、記念館などでも南京大虐殺のことを証言しています。

みんなでそこを離れて、近くの小屋に入りました。100人くらいの人が跪いていました。どこかから米を探してきてお粥を作りました。3歳の妹はお腹がすいて泣きました。周りの人は、やっと生き残ったのに、泣いたら日本兵に見つかってしまうから泣かないようにと言いました。私は妹に泣かないように言いました。みなさん、考えてください。両親が死んでしまった。しかしそれでも泣いてはいけないと言われて、本当に泣きたくて泣きたくても、泣けない。本当に辛かったです。

そのときまた日本人がやってきました。日本人にはいい鬼と悪い鬼がいて、いい鬼が来ました。「何をしているのか」と、みんなに訊ねました。二人姉妹の両親が殺されたことやさせられたことを伝えました。するといい鬼は薬を取り出して妹につけました。だから日本人が全部悪いものではない。おじいさんは翌日二人をお寺に連れて行きました。途中は死体が山のように、私達も周りもみんな血だらけです。私はその時、6歳でしたが、その日見たことをありありと覚えていて、全然忘れられない。

お寺の防空壕に行こうとしていると日本人が桶を持ってやってきました。そこに入っているのはガソリンです。その防空壕も日本人が機関銃で掃射したものです。まだ生きていた人もおり、死体がたくさんあるので、ガソリンをかけて燃やしました。おじいさんが、向こうに行ってはいけないと言い、お寺に戻りました。洞窟の中には何百人もいたと思います。翌日また日本人がお寺に来ました。私達は怖くなって泣きました。おじいさんは、そのときそばにいた3人のおばあさんに、「もし自分が日本兵に連れて行かれたら、孫をよろしく頼む」と言いました。私達にも、「もし戻って来なかったら、おばあさん達の言う事をよく聞くように」と言いました。サイ、チョウ、カク、という名前のおばあさんでした。私の目から見ればおばあさんですが、祖父の目から見ればお姉さんです。おじいさんが、3人のおばあさんに、「3人のお姉さん、この子達の両親は殺されました。もし戻って来られなかったらお願いします」と言いました。

おじいさんは連れて行かれ、私達は周りの人に泣かないように言われ、とて

も辛い思いをしました。しかし、その日は運がよく、夜になったら戻ってきました。でもまた朝が来ます。そして命はありますが、食べ物がありません。どこかに行くにしても、死体を超えて行かなければならない。翌日になるとまた日本兵がやってきて、おじいさんを連れて行き、夜になると帰ってきました。三日目か四日目になってもおじいさんは帰ってきましたが、食べ物がないので、おじいさんは夜になると、物売りがいないかとあちこち歩き回りました。そのとき皮蛋を見つけました。その時は冬で大雪でした。その辺にある木材を拾って来て、それを燃やして皮蛋を焼いて食べました。

そのような状況で3~4日経って、一回目にやって来た日本軍が戻っていくと、日本軍はまたおじいさんを連れて行きました。私達が住んでいた所からそんなに遠くない別の家で、おじいさんは、帰る前にお風呂に入りたい日本人のためにお湯を沸かすことをさせました。ちょうどお湯を沸かしていた時に一人の日本兵に中国語で話しかけられました。「実は私は中国人ですが、日本に行っただので、日本軍にいます。私の部隊はもうすぐここを離れますから、あなたは私達と一緒に行かなければなりません」と言いました。おじいさんは、「私には二人の孫娘がいます。両親はあなた達に殺されました。私が戻らなければ二人は死んでしまう。連れて行かないでください」と、なんとか頼みました。その人は紙切れに何か書いて、次の日、日本軍が来たらそれを見せるように言いました。孫娘をはやくどこかに連れて行くように、今回の日本軍は殺すばかりでしたが、次回は何をするかわからない。そしてお金のようなものもくれました。

1回目の日本軍が荷造り、片付けをして行く前に、一緒に来いと指図しました。おじいさんは、孫がいること、その子達の両親が殺された事を伝えようとしてしましたが、日本軍の人は表情でダメだと伝えました。おじいさんは、書いてもらった紙を見せました。日本軍はおじいさんを連れて行くのをやめました。次に来た日本軍は、またたくさん悪い事をしました。その時、南京には若い女性の姿は全然ありませんでした。若い人を見たら強姦してしまうんです。それだけでなく、殺してしまうんです。ですから若い女性の姿が全然ない。木材を燃やして灰になったものや、鍋底の煤を顔に塗ったり、髪をメチャクチャにして、酷い姿にしてどこかに隠れています。

2回目に来た日本人は1回目に来た日本人よりは少しましで、メチャクチャに人を殺しはしませんでした。でもそれでもやはりみなさん想像できないほどたくさん悪い事をしました。よく女性を見ては強姦しました。3人でも10

人でも、とにかく強姦してから殺してしまう、というような状態でした。南京の人々は逃げたり死んだり家もなく、おじいさんは私達を連れて、家のようなものを作り、もらったお金を3人のおばあさんに分けました。食べ物も拾ってきたり、なんとかしのいでいました。真冬に何とか拾って来た皮蛋を食べるのですが、そのまま食べると妹は口から泡が出て、口の周りがただれてしまいました。妹はお腹も口も痛くて毎日泣いていました。

2年後に8歳、妹が5歳になったとき、おじいさんが病気になってしまいました。おじいさんは、私達を心配して病床に呼びました。おじいさんは、今回の病気はとても重くて、どうなるかわからないので、3人のおばあさんにまた私達の世話を頼みました。私達は「捨てないで」と泣きました。おじいさんは、「捨てるのではないけど、どうなるかわからない。もし生きられたらあなた達を成人させて嫁に行かせる。でも、生きられなかったらどうしようもないから、人に頼むんだよ」と言いました。

私はコという家の嫁になるように決まり、妹は石さんの家に行くように決められました。ある日、妹と外で遊んでいたら、「早く家に帰りなさい。プレゼントを持って誰か来ているよ」と言われました。家に戻ると、その家の人々が、私達を嫁としてももらうためにやって来ていました。まだ子どもですから、私は泣きました。でも、おじいさんがもう長く生きられないかもしれないと言うので、仕方なく承知しました。私達はそのまま各家に連れて行かれました。コさんの家は子どもが7人いて、4番目の子どもが私の夫にあたる人でした。私はいつもみんなの最後にご飯を食べていましたから、いつも飢えていました。お腹いっぱい食べる事もないし、色々苦勞しました。

幸いおじいさんは死ななかつたんです。おじいさんの家は、コさんの家からそんなに遠くないんです。おじいさんはいつも川に行つて魚や蝦をとつて生活してましたので、いつも家に帰つて魚や蝦をもらつて帰りました。南京のことがあつてから、1日もいい日を過ごした事ありませんでした。その後、私は16歳になり、4歳上にあたる人と結婚することになりました。しかし、何も持っていないし、何もわからないし、ただ恥づかしい。翌年17歳のとき、やつと結婚しました。

子どもも生まれましたが、私の生活は今でも苦しいです。息子が48歳ですが、それでも生活は苦しいです。生活はずつと貧しくて、上の息子は先月8月23日、61歳で亡くなりました。もともと基礎がありませんのでいい仕事につくことも

できず、誰よりも早く失業してしまいました。今は48歳になる末息子と生活しています。彼も体が弱く、病気だらけで、嫁も体が弱く、孫もあまり健康ではありません。私も心臓病で薬を持ち歩いています。とにかく生活は苦しくて、苦しくて、昔の記憶も大変です。昔の事を話しても誰も助けてはくれないし、話してもしょうがないんです。とにかく南京で日本人がやったことをみなさんにお伝えしました。

私も82歳ですが、政府や周りの人々に少しずつ助けられ、8つの国に話をしました。日本へも行きました。そのとき一人の日本人のおじいさんと息子が来ました。実は、おじいさんは日本兵で、南京にいました。彼は自分の息子と孫と家族を連れて来て、私の前で跪きました。「悪いことをしてきましたが、これからなんとかおばあさんの苦しみを軽くするように何かしなければならない。中国人は復讐をしなかったので、恩返しをしなければならないよ」と話しました。私もみなさん若者に話したいです。特に日本の若者のみなさん、聞いてください。先輩のように人を殺したりしないでください。私は82歳ですが、国民党も共産党も経験しましたが、そのときの日本人ほど悪いものを見たことはありません。人を殺すときに瞬きもしないような、そういうやり方は絶対にしないでください。

今日はこれで終わります。心臓がまた痛くなりました。みなさんは若くて勉強中ですから、いいものを勉強してください。政治家になってから悪いことをしないでください。本当に人を殺さないように、いい勉強をして、悪いことをしないように。以上です。

参加者コメント、質問など

### 3-3 HWH

ボルカス：休憩時間に何人かに感想を聞くと、ショックや重さ、気持ちを表現したい、またはしたくないなど色々な感想がありました。ですから、また円になって、もし彼女に言いたい事があって、もしどんなことでも言って良いとしたら、何を言いたいですか。これは儀式のように行ないます。円になって歩きます。何か言いたい事がある人がいたら、椅子の前に来た時に前に出て話してください。歩く円はストップします。

ボルカス：シェアリングをしましょう。3～4人のグループになってください。その際に空の椅子を一つ置いてください。そのシェアリングの中で、何か気持ちが出て来たら、その椅子に彼女がいるかのように話しかけてみてください。

ドラマワーク：4人のグループで、日本人と中国人が旅に出て、日本兵、幸存者、賢者などに出会う旅のドラマを作り、グループごとに演じる。



#### 4. 2013年9月19日（木）

##### 4-1 HWH

ボルカス：今日はもう少し皆さんに挑戦をしたいと思います。私達は今日行なうワークのためにしっかりと感情の容器を作る必要があります。今日のワークは少し強烈に感じるかもしれません。できる範囲でリスクをとり、また自分に必要なサポートを得るようにしてください。携帯は切っておいてください。誰かがワークをしているときは、隣の人とおしゃべりしたりせず、集中してサポートしてあげてください。ここにいる多くのみなさんは戦後3世にあたります。みなさんがどのくらい戦争の影響を受けたと感じているかわかりません。ですから今日はアイデンティティーを解きほどくエクササイズを行ないません。みなさんはどのようなメッセージを、メディアや学校や社会や家族から受け取って来たでしょうか。

##### ウォームアップ

##### Name and Movement（名前と動き）

Sound Ball（音の出るボール）：今、想像のボールを持っています。誰かにこのボールを投げます。音もついています。ボールを受け取る人は音も一緒にリ

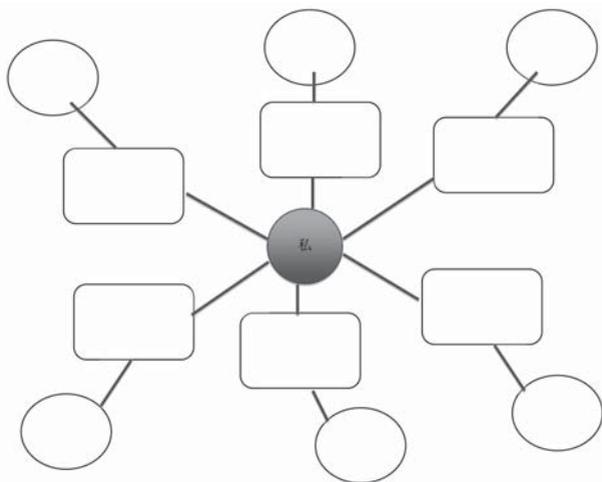
ピートしながら受け取ってください。その人はまた別のの人に違う音を出しながらボールを投げます。ボールを受け取った人は音を出しながら受け取って、また次の人へ新しい音と共に投げます。受け取ったらすぐに投げるようにします。ボールは二つ、三つと増えて行きます。

**Freeze! (フリーズ：ペア)**：二人の人がシーンを演じます。フリーズ！と言ったら、とまります。そしてその体のポーズから連想されるまったく別のシーンを演じます。言葉も喋ってください。バナナの奪い合いをしている2匹のゴリラから始めます。

**Chair Work in Group of 3 (3人グループでの椅子のワーク)**：「今から南京大虐殺の話、または中国人であれば日本人に対する気持ちや、日本人であれば中国人に対する気持ちを話します。それを自分として話すのではなく、あなたの人生の中の誰か、親戚の人や、自分が知っている人、たまたま出会ったあるキャラクター。例をやります。この椅子に、私は自分の父親となって、ドイツ人に対してどう思っているか話します。『私はアウシュビッツにいた。ナチスのドイツ人に拷問された。酷く殴られた。でもドイツ人とナチスはいつも区別している。第二次世界大戦の時、フランコに対抗するレジスタンス戦に参加した。ドイツ人と一緒に戦っていたんだ。だからドイツ人に苦しめられたが、すべてのドイツ人が悪い訳ではない。』これは、私の父親です。あなたの知っている誰か、友達など。例えば、ドイツ人の『あのキャベツ頭どもめ』という友達とか、たまたま飲み屋であった人とか、あなたのおばあさんや、幸存者など、誰か別の人の視点から語ってみてほしいのです。例えば、記念館の中にはたくさんの人々が展示されていましたが、日本兵が言った事もありましたね。その言葉から、どんなことを考えていたのか、演じてみるができます。椅子に座って、少しの間そのキャラクターになって独り言を言ってみるのです」

**Map of Messages (メッセージの地図)**：「メッセージの地図というエクササイズをします。これは言葉で、または無言のうちに、あなたに自分のアイデンティティーや、また相手の国に対するどんなメッセージが伝わって来たかを見るものです。誰から、どんなメッセージが伝わって来たのか。両親や、近所の人、学校のいじめっ子などに言われて残っている事だったり、別れた彼や彼女が

言った事など。人だけでなく、メディアや、教育など、例えばあなたの国の教育システムがあるメッセージを持っていたとしたら、メディアはあなたのアイデンティティーにどのようなフィードバックをしているか、色んなメッセージがたくさんありますので書き出してみてください。これは、このダイアグラムのほんの始まりです。ここに書ききれない程のメッセージがあるはずです。これを作った後、中国人の地図と日本人の地図をそれぞれ見ていきたいと思います。私を例にやってみましょう。私はたくさんの文化アイデンティティーを持っています。私は米国人であり、フランス人であり、ユダヤ人、これは宗教的なアイデンティティーではありませんが、文化的には繋がっています。例えば米国人としてのメッセージを見てみましょう。ポジティブ、ネガティブのメッセージがあります。右翼のジョージ・ブッシュがここに立って『俺たちは世界一だ』と言っています。ニューヨークの港に立っている自由の女神がいます。詩が書いてあるのですが、米国は移民の国なので、とても理想的な移民へのメッセージです。『こちらに来なさい。あなた達を守ります。ここには自由があります』などです。これらは抽象的ですが、身近な所では私の父親がいます。『私達は難民だったんだ。米国は特に好きなわけではない。でも戦後受け入れてくれた。私達はどこにも属さない。故郷はない民なのだ。』これらは、私に影響を与えたメッセージです。このような何百ものメッセージが、自分が意識していなくても同時に色々なところから送られて自分に影響を与えています。10分程で、自分のメッセージの地図を書いてみてください。その後、2~3人のグループになって、地図についてシェアリングをしてみてください。』



メッセージの地図

## サイコドラマ



サイコドラマの後のシェアリング：「10分くらい小グループになって、どのような気持ちが湧いて来たか話をしてみてください。昼休憩の後にまた少しシェアリングをしますが、今、少しシェアをしてみてください。分析しない、アドバイスをしな、批判しない、質問をしない、ということに注意してください。彼女の経験と、似た経験をした部分があるあなたの中にもあるでしょうか。彼女のサイコドラマを見ていて、誰のことや、どんな出来事が、連想されましたか？サイコドラマは、変性意識を喚起しますので、プロタゴニスト（注：主人公）には、十分なケアとスペースを提供しましょう。」

## 4-2 HWH

「普段はサイコドラマの後、グループで全体シェアをしますが、その時間がなかったので小グループでシェアリングをしてもらいました。しかし新しいことを始める前に、リアクションや気持ちなど、伝えたいことがあれば、どうぞシェアしてください。マイクをまわしますので、言いたいことがある人は話し、言いたいことがない人は、次の人にマイクをまわしてください。先ほどのワークを完了させてから次に進みましょう。」

「もう一人分の時間があります。日本の文化背景を持っている人を中心にワークをしたいと思い、何人かの日本人に個人的に話をしますと、やってみることに躊躇しているようです。ですから、日本人のみなさんに、ここ南京で体験したこと、または人生の中の体験の一つで、印象深いこと、例えば記念館で日本人が証言するのを見たことや、子どもの頃、人が殺されるシーンを本で見てショックだったことなど。マイクを回しますので、言いたいことがあればどうぞ。」

### 全体シェアリング

「このような正直な気持ちを伝える勇気を持ってプロセスして行くことが大事ですので、このようなシェアリングの時間が持てて良かったと思います。」

### 休憩

「あと残り一時間ほどあります。明日は揚子江での儀式があります。その後少しプロセスをする時間があるかもしれません。明日の午後、このグループはいったんお別れして、午後にはシンポジウムがあります。最後にたくさんの箱を開きました。しかし良いファシリテーターの基本は、終わりになって新しい事を開かないということです。ですからこれからどのようなことをしようかと考えるところですが、直接対話することはまた各自やってもらうことにして、これからみんなで一緒に作りあげていくことをしたいと思います。」

**Dramatic Reality (空想の現実) :**「このエクササイズでは二人で一つの世界を作り上げていきます。Dramatic Reality (空想の現実) です。小川があるから、足を入れてみよう。など、空想してそれが現実であるかのように演じてみてください。それをペアで行ないます。山を作ったり、ジャングルを作ったり、好きな世界を作り上げていきます。」

「次に3人グループになってください。一つのシーンを演じて、「フリーズ！」と言ったらまた別のシーンを始めるエクササイズをしてきましたが、それと同じように。ただしフリーズ！という合図はありません。まず一つの現実を作り演じながら、3人でどんどん変容する現実を作りあげていきます。3人のうち誰でも自由にシーンを変容させることができます。また同時にこれまで扱って来たテーマも取り入れて遊んでみてください。何が起こるかやってみましょう。」

**おとぎ話 :**「ペアになり、一人がパフォーマンスを行い、もう一人が証人になります。おとぎ話を演じます。昔々あるところに、でお話を作りながらそれを演じます、スイッチ！と合図をしたら交代します。」

**夢を演じる :**「次は夢を即興で作ります。今まで見たことのある夢ではなく、ここで作って行きます。自分の意識の流れを辿って、イメージーションを使って、テーマに関するイメージをプロセスさせているわけです。おもしろおかしいイメージであっても良いですが、このワークに関わるイメージが浮かんできたらそれを自由に表現してみてください。それが終わったら、どのようなイメージが表現されていたか、パートナーとシェアしてみてください。」

**儀式をつくる :**「この後、メンバーの希望者は明日の追悼式をどんなものにするか話し合う時間をもちますので、そのためのエクササイズをします。プレイフルなエクササイズなので、明日これを直接使うことはできないかもしれないかもしれませんが、心の準備になるかもしれません。5~6人で一つのグループになって、誰かが音と動きを始めます。それを好きなように変容させていきます。」

最初は小グループで行い、それを繋げてだんだん大きなグループなり、最後には全員で一つのグループになって終了。



「みなさんの中に、遊び心を持った子供の部分がいきいきとしているのがよくわかりますね。これからまた、この楽しい雰囲気から、追悼式へと移行していきます。この後、追悼式のプランニングに参加できる人は残ってください。」

## 5. 2013年9月20日（金）

### 5-1 揚子江での追悼式



## 5-2 HWH

### ウォームアップ

**Human Sculpture (人間彫刻)**：3人組で人間彫刻を作ります。ステージピクチャーのようなエクササイズですが、それを3人でやるのです。チェンジ!と合図をしますので、動作を変えて彫刻を変容させてみてください。」



**Fluid Sculpture (動く彫刻)**：「まずこの4日間を通して自分に影響を受けたことをシェアしてもらいます。それに共感し、尊重し、舞台側にいる5人がそれを演じます。そしてシェアをした人に贈り物としてお返しするのです。常に語り手の気持ちを音や動きで演じます。まず一人の人が前に出て、シェアしてもらったことのある部分を表現します。そして次々とそこに付け足すようにジョインして表現して行くのです。」

### 3~4人でのシェアリング

**クロージング**：「午後はシンポジウムがありますが、プログラムは一旦終わります。ひとことずつシェアをして終わらしましょう。」

### シェアリング

**親指の井戸**：最後に一人ずつニックネームを言って終わります。